



# 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC  
（奈良県保健環境研究センター内）



## ● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（7月月報） New
- 予防接種・・・を知る(1) New



**（調査週）平成 24 年 第 3 2 週 8 月 6 日（月）～8 月 1 2 日（日）**

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	1.60	→～↓	→～↓	→	↓
2	ヘルパンギーナ	1.06	→～↓	↓	→～↓	→～↓
3	咽頭結膜熱	0.34	→～↓	↑	→～↓	↓
4	水痘	0.23	↓	↓	→～↓	↑
5	RS ウイルス感染症	0.17	↑↑	↓	↑↑	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

**県北部地区概況** 報告数は48例で、前週報告の99例からほぼ半減。上位5疾患は、①ヘルパンギーナ＝感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④咽頭結膜熱、⑤手足口病の順で、ヘルパンギーナは5週連続で第1位。

咽頭結膜熱の報告数（4例）は、やや増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（5例）は、ほぼ横ばい。ヘルパンギーナの報告数（15例）は、ほぼ半減。感染性胃腸炎の報告数（15例）も、ほぼ半減。手足口病の報告数（3例）は、やや減少。奈良市HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎が1例報告された。

また、郡山HC管内基幹定点より、マイコプラズマ肺炎の報告が1例（5～9歳児）あった。（村井 記）

**県北部外来状況** 外来患者数は予防接種を除いては少ない状態が続いている。突然の高熱と頭痛、咽頭痛を訴えるが診察所見に乏しい夏風邪は最近減少し、ヘルパンギーナがやや増加している。手足口病はほとんどみかけない。水痘が少しずつみられたが、これも減少している。

(矢追 記)

**県中部地区概況** 報告数は、110例から80例と減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症、水痘の順であった。感染性胃腸炎は、39例と横ばいであり、ヘルパンギーナは15例と減少傾向である。RSウイルス感染症は、0~2例から6例と急増している。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。

(高木 記)

**県中部外来状況** 外来数は少ない。短期の発熱の夏風邪が主。ヘルパンギーナが僅かに出てきたが少ない。手足口病はまだない。感染性胃腸炎も減少傾向。

(岡本 記)

**県南部地区概況** 報告数(第31週→第32週)は29例→12例と減少。報告のあった疾患は、①ヘルパンギーナ(20例→7例)、②水痘(1例→3例)、③感染性胃腸炎(2例→2例)であった。

(柳生 記)

**県南部外来状況** 外来数は少ない。ヘルパンギーナも僅か。手足口病はなし。他は水痘が僅かのみ。感染性胃腸炎も少ないが、キャンピロバクター+O111(ベロ毒素なし)3才の例などがあつた。盆明けの外来も特に多くはないが、久しぶりの伝染性紅斑があつた。

(山本 記)

## 【月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（7月月報）】

平成24年7月に、奈良県内の定点医療機関より保健所に届出のあった月報告対象感染症の報告数は以下の通りです。

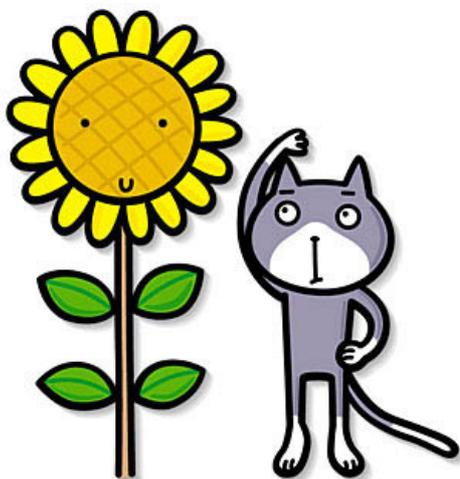
### ・STD患者数（人）

疾患名\報告月	7月		前月（6月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
性器クラミジア感染症	7	0.78	8	0.89
性器ヘルペスウイルス感染症	2	0.22	3	0.33
尖圭コンジローマ	2	0.22	1	0.11
淋菌感染症	8	0.89	3	0.33

### ・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

疾患名\報告月	7月		前月（6月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	31	5.17	38	6.33
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	11	1.83	11	1.83
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.17	1	0.17
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0

（感染症情報センター 記）



# 予防接種----を知る (1)

**予防接種とは----** 私たちは、生活の中でさまざまな細菌やウイルスとともにすごしていますが、それぞれに対する抵抗力がなければ病気（感染症）にかかってしまいます。そこで、感染症から免れる方法として予防接種があります。

予防接種に使用する薬液をワクチンといい、注射したり、飲んだりすることで、免疫を獲得し発病を予防したり、症状を軽くすることができるのです。



## ワクチン----とは？

### ・ 生ワクチン

生きた病原体を弱めたもの（BCG、麻しん、風しん）

### ・ 不活化ワクチン

免疫をつくるのに必要な成分を病原体から取り出し、可能な限り毒性をなくしたもの（ポリオ、ジフテリア、百日せき、破傷風、日本脳炎）

### ・ トキソイド

細菌が産生する毒素だけを取り出し、毒性を弱めたもの（ジフテリア、破傷風）

## 定期 と 任意----どう違うの？

定期接種： 予防接種法に基づき自治体が行うもので、多くは無料です。BCG、ポリオ、ジフテリア、百日せき、破傷風、麻しん、風しん、日本脳炎などがあります。

任意接種： 自費で受ける予防接種。肺炎球菌、ヒブ（インフルエンザ菌b型）、おたふくかぜ、水ぼうそうなどがあります。

## 平成 24 年度までに麻しんを排除

世界保健機関では日本を含む西太平洋地域において、2012年までに麻しんを排除するという目標を定めました。それを受け、わが国では予防接種法施行令を改正し、平成20年4月から平成25年3月31日までの5年間は、通常の定期接種（第1期、2期）に加え、第3期（中学1年生相当年齢）および第4期（高校3年生相当年齢）が定期接種の対象となっています。

平成22年度麻しん・風しんワクチン接種率

	奈良県	全国平均
第1期	91.3% (47位)	95.7%
第2期	91.1% (39位)	92.2%
第3期	84.3% (39位)	87.3%
第4期	80.4% (31位)	78.9%

（資料提供は県保健予防課）

上記の表からは、いずれの時期においても奈良県は全国平均に比べ接種率が低く、今後、接種率を向上させる必要があります。

使用するワクチンは原則として麻しん・風しん混合ワクチン（MR）です。免疫の獲得には2回接種が必要です。接種歴の不明瞭な人やすでに免疫を持っている人が再度接種を受けても特別な副反応が起こるなどの問題はありませぬ。詳しくは市町村または医療機関でご相談ください。

（感染症情報センター 記）

これらの内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます  
アドレス [http://www.pref.nara.jp/dd\\_aspx\\_menuid-27874.htm](http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm)